

通ノ了解ニ到達シ直ニ諸國政府將來ノ行動及政策ニ對スル指針ヲ與ヘラルヘキコトハ合衆國政府ノ等シク希望スル所ナリ

第二節 太平洋及極東問題ニ對スル帝國政府ノ訓令

十月十四日
總統訓令

華府會議ニ於ケル我方方針トシテ帝國政府ハ前記米國試案ヲ基礎トシ帝國全權ニ對スル總括訓令ヲ作成シ帝國全權ノ出發ニ先チ十月十四日之ニ手交シタルカ右ニ就キ太平洋及極東問題ニ關スル分ヲ摘記スレハ次ノ如シ而シテ同訓令中一般方針トシテ掲ケラレタルモノカ本問題ニモ適用セラルヘキハ言フ俟タス

太平洋問題

(一) 太平洋問題

(甲) 會議ノ情勢ニ依リ主張スヘキ事項

太平洋及極東方面ニ於ケル一般平和ヲ確保セムカ爲ニハ其全局ニ互リ共通ノ諒解ヲ遂クルノ要アルコト勿論ナルカ故ニ帝國政府ハ此見地ヨリスレハ太平洋ノ意義及範圍ヲ可成廣汎ニ解シ左記ノ諸問題ニ付一般的主義ノ樹立ヲ提唱セサルヲ得スト雖此ノ點ニ付テハ十月十三日發幣原大使宛訓電中記載ノ事由ニ依リ議題トシテ提出方ヲ見合セタルモ會議ノ情勢上是等諸問題ノ討議ヲナササルヲ得サル場合ヲ生シタルトキハ先ツ以テ太平洋方面トハ太平洋ニ面スル各國ノ本土及各國ノ太平洋ニ位スル所領全部ヲ包括スルノ趣旨ナルコトヲ主張セラレ若シ會議ノ情勢上斯ル諒解ノ成立困難ナルトキハ太平洋ニ位スル各國所領(自治領、殖民地、島嶼等)ノ問題トナシ又已ムヲ得サル場合ニハ自治領ヲ除キ單ニ各國ノ殖民地及島嶼ニノミ關スル問題トナスコトニ同意セラレ差支ナシ又帝國政府力右諸問題ヲ提議スル所以ノモノハ列國共通ノ諒解ニ依リ一般的主義ヲ確立スルニアリテ此際直ニ個々ノ實際問題ヲ解決セントスル趣旨ニ非サルヲ以テ此點ハ列國ヲシテ充分理解セシ

メラレ度シ而シテ門戶開放機會均等問題ノ討議ニ當リテハ會議ノ情勢ニ由リ天然資源問題及外國人待遇問題ニモ互リテ論議シ度キ意嚮ナルカ是等問題ハ帝國ノ存立發展上至重ノ關係ヲ有シ而カモ正義人道ノ觀念ニ合致スルモノニシテ今回ノ會議ニ於テ帝國ノ地歩ヲ擁護シ其主張ヲ徹底セシムヘキ有力ナル利器ナリト雖一面之ヲ以テ支那及西比利亞問題ノ討議ヲ牽制スルノ意ヲ寓スル次第ナルヲ以テ帝國ノ立場ニ對シ列國ノ諒解ヲ得テ將來解決ノ素地ヲ作り得ルニ於テハ右等問題ニ深入スルヲ避ケ以テ他ノ問題ノ解決ヲ容易ナラシムル等臨機妥當ノ斟酌ヲ加フルノ必要生スヘキニ付其邊御含置アリタシ

一、列國領土ノ相互尊重

太平洋方面ニ於ケル列國ノ領土ヲ相互ニ尊重スルノ主義ヲ一般ニ認ムルコト

二、門戶開放——商業及產業上ノ機會均等

太平洋方面ニ於ケル列國ノ領土ニ商業及產業上ノ機會均等主義ヲ適用スルコト

(乙) 討議ニ異存ナキ事項

太平洋ニ於ケル委任統治問題若シ議ニ上ルコトアル場合ニハ左ノ趣旨ヲ體シテ然ルヘク措置セラレタシ

一、赤道以北舊獨領諸島全部ニ對スル我委任統治ハ巴里講和會議及國際聯盟理事會ノ決議ニ基ク確定ノ事實ナルカ故ニ右統治ニ對スル主體ノ變更ハ之ヲ承諾スルコトヲ得ス

二、「ヤップ」問題ニ關シテ米帝國政府ハ右根本方針ニ則リ米國ヲシテ同島ニ對スル從來ノ異議ヲ棄テ赤道以北舊獨領諸島全部ニ對スル我統治ノ事實ヲ認メシムルト同時ニ「ヤップ」島カ國際通信ノ關係上特殊ノ地位ニアルノ事實ニ鑑ミ海底電信、無線電信其他一般電氣通信ノ關スル限リ米國及米國人ニ對シ一定ノ特權免除便益等ヲ與フルノ趣旨ニ依リ米國政府ト交渉シ來レル次第ナルカ右ハ日米兩國間限リノ問題ナルヲ以テ萬一會議開會前ニ解決ヲ見難キコトアリトスルモ兩國間ニ交渉ヲ繼續シ之ヲ會議ノ範圍外ニ置カシムヘシ尤モ今回ノ會議ヲ機トシ是非其本問題ヲ討議シタシトノ提議出ツル

ニ於テハ五大國間ニ於テ之ヲ審議スルコトニ異存ナシ

三、赤道以北舊獨領委任統治條項ハ既ニ國際聯盟理事會ノ決議ヲ經帝國政府ニ於テ公布シタルモノナルヲ以テ聯盟規約所定ノ手續ニ據ルニ非サレハ之ヲ變更スルコト能ハサルハ勿論ナリト雖一般聯盟國カ右統治條項ニ依リ受クル利益ヲ米國ニ與フルコトハ帝國政府ニ於テ異議ナキ所ナリ

四、帝國政府ハ國際聯盟ノ根本精神上並聯盟規約ノ解釋上通商及貿易上ノ機會均等ノ保障ヲC式委任統治地域ニ適用スルノ至當ナルヲ認ムルカ故ニ若シ米國其ノ他何國カヨリ委任統治地域ニ於ケル通商貿易上ノ機會均等主義ノ適用並利權及天然資源ニ關スル獨占禁止ノ提議アルニ於テハ其ノ赤道ノ南北ヲ問ハス南太平洋ニ於ケル委任統治地域一般ニ適用セララルモノナル限リ贊同セラレ差支ナシ

五、「ヤップ」島ヲ中心トスル舊獨逸海底電線問題ニ關シテハ帝國政府ハ米國及蘭領印度方面ニ對スル我通商權ノ確保ヲ主眼トナシ右電線ノ分配及運用ニ關シ日米蘭三國間ニ公平妥當ナル協定ニ達セムコトヲ庶幾シ此方針ヲ以テ華府國際通信豫備會議ニ臨ミ且米蘭兩國政府ト交渉ヲ續ケ其解決條件ニ至テハ既ニ廟議ノ決定スルモノアルカ故ニ會議ニ於テ萬一本問題ニ觸ルルコトアラハ右既定ノ方針ヲ維持スヘキ意嚮ナリ

支那問題

(二) 支那問題

(甲) 會議ニ於テ進テ主張スヘキ事項

支那問題ニ關シテハ特ニ帝國ニ於テ他國ト異リ緊切ノ關係ヲ有スルヲ以テ今回會議ニ於テ最モ重キヲ置クヘキ中心問題並ニ之ニ對スル我方針ニ付テハ深く考慮ヲ要スル處支那問題ニ付テハ左記ノ方針中(一)支那現在ノ政情不安定ノ事實及之レカ爲隣邦ノ適切ニ感スル不安ノ次第並支那ノ平和的進歩ノ助成ニ對シ我帝國ノ協力スヘキ衷心ノ好意ヲ縷述セラレ度ク將又(二)支那ノ領土保全、機會均等、門戶開放ノ主義ヲ尊重スルコトハ帝國既定ノ方針ニシテ右(一)ト關聯シ適宜聲明セラ

レ差支ナク次ニ(三)支那自身ノ開放ハ會議ノ情勢ニ應シ提唱セラレタシ尙支那力會議ニ於テ日本既往ノ對支態度ニ對シ種々非難中傷ヲ加フルカ如キ場合ニハ篤ト辯明ヲ加フルノミナラス支那ニ於ケル行政財政司法其ノ他一般政況乃至政情ノ實情ヲ詳細説明スルノ必要アルヘシ

一、支那ニ於ケル現在ノ政情安定ヲ圖リ且將來ノ福祉増進ノ爲メ文化的及經濟的兩方面ヨリ其ノ平和的進歩ノ助成ヲ圖ルコト

(イ) 政情不安定ノ事績ヲ縷述スルコト

政情安定ハ支那自身ノ行フヘキ處ニシテ今回會議ノ機會ニ於テ參列國ト協調シテ篤ト支那ノ反省ヲ促スノ措置ヲ講スルコト

(ロ) 平和的進歩助成ノ方法

(一) 文化的方面

外國共同シテ支那文化施設ノ進歩發達ヲ援助スルノ措置ヲ講スルコト從テ自然國匪事件賠償金處分方ニ關シ提議ヲ見ルコトアルヘク此ノ場合ニハ帝國ハ該償金ヲ本項ノ如キ文化的施設ニ充當スルノ意向アル旨聲明セラレ差支ナシ但シ本問題ニ付テハ英佛伊等ノ意向判明セサル次第ニモアリ旁々帝國トシテハ是等諸國ヲ強テ勸奨スルカ如キ態度ニ出ツルハ避ケタキコト

(二) 經濟的方面

新借款團又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ支那ノ經濟的改造及交通改善ノ企圖ヲ援助シ以テ支那ノ經濟的能率ノ増進ニ資スルコト

二、支那ノ領土保全、門戶開放、機會均等ノ主義ヲ尊重スルコト

本主義ヲ格守スルコトハ外國間ノ條約乃至外國ノ聲明ニヨリ既ニ定マレル大針ナリ

三、支那自身ノ開放即チ支那ニ於ケル排外的の若クハ閉鎖的施設ノ如キ世界文化ノ趨勢ニ件ハサル施設ハ之ヲ撤廢スルコト
(鐵鑛閉鎖防穀令内地閉鎖等ノ如シ)

但シ日本ヨリ之ヲ主張スルニ當リ日本ハ支那ノ閉鎖ヲ云爲スルモ畢竟スルニ其ノ主眼トスル處ハ支那ノ資源ヲ開發シテ
日本ノ獨リ其ノ利益ニ浴センコトヲ期スルモノナルカ如キ疑惑ヲ與ヘサル様之レカ提唱ノ機會及方法ニ付テハ深甚ノ注
意ヲ要スヘシ

(乙) 會議ニ於テ議題トナリタルトキハ一定ノ保障又ハ條件ヲ附スルニ非サレハ贊成シ難キ事項

本項ニ關スル事項中巴里平和會議ニ於テ帝國全權ヨリ已ニ聲明セル行懸アルモノモアリ又其他ノ事項ト雖其ノ趣旨ニ於テ不
可ナク從テ正面ヨリ之ニ反對スルカ如キハ之ヲ避クルコト然ルヘシト雖翻テ巴里平和會議以後ニ於ケル支那ノ事態ヲ顧ミ
ルニ混亂ノ度益々甚シキヲ加フルノミナラス日本ニ對スル態度亦頗ル好マシカラサルモノアリ此ノ狀態ヲ以テ推セハ將來
果シテ如何ナル事態ニ到ルヘキヤ逆睹シ難キモノアリ旁々支那又ハ其他ノ國ヨリ本項ニ屬スル事項ヲ提議シタル際ハ各事
項ニ關シ將來ニ對スル相當ノ保障ヲ設ケ又ハ條件ヲ附シ以テ後累ヲ貽ササルノ手段ヲ講シタル上同意スル様取計ハレ度シ
一、領事裁判權ノ撤去

領事裁判權ノ撤廢ハ條約上ニモ公約アリ且巴里平和會議以來帝國政府ノ既定方針ノ一ナリ但シ其ノ撤廢ハ支那ニ於ケル
司法制度等ノ完備ヲ俟テ始メテ實行セラルヘキモノナルニ付此ノ點ニ付明確ナル條件ヲ附スルコトヲ要ス

二、在支外國軍隊ノ撤廢

在支外國軍隊ノ撤廢ハ巴里平和會議ニ於テ帝國全權ノ聲明セル處ニシテ左ノ諸項ノ通措置セラレ度シ

可成速ニ列國一律北支駐屯軍ヲ撤去スルコトヲ提唱スルコト

(但シ漢口派遣隊ハ可成速ニ撤退シ又北滿駐屯部隊ハ浦潮地方撤兵ト共ニ撤退ノ方針ナルコトヲ聲明セラレ差支ナシ)

山東ニ於ケル日本ノ軍隊ハ目下山東問題善後措置ニ關シ支那ニ開談シタル次第アルヲ以テ右ニ據リ措置スルコト

三、在支外國軍港ノ撤廢(日本トシテハ實際問題トナルハ旅順口ナリ)

若シ外國側ニ於テモ撤廢ニ異存ナキニ於テハ我方ニ於テ各國一律之ヲ撤廢スルニ異存ナシ

四、勢力範圍ノ撤廢

支那ニ於テハ勢力範圍撤廢ハ巴里ニ於ケル帝國全權ノ聲明セル處ニシテ經濟上ノ能力範圍問題ハ新借款團ノ成立ニ依リ
大部分自然ニ解決ヲ見タルモ今同ノ華府會議ニ於テ更ニ之ヲ明確ニ決定セムトスル場合ニハ各國トモ同一ニ之ヲ律スヘ
ク即チ英國ノ勢力範圍ト認メラル揚子江沿岸、佛國ノ一般優先權ヲ有スル廣東廣西雲南地方等ニ於ケル排他的主張ヲ
モ一律撤廢スルヲ要スルコト勿論ナリ但シ滿蒙地方ニ對スル我國防並我國民ノ經濟的生存ニ關スル保障ハ新借款團成立
當時既ニ留保セラレ勢力範圍ノ撤廢ニ依テ影響ヲ受クヘキニ非ス

五、在支外國警察官ノ撤退

不開放地ニ於ケル警察官ノ一時的駐在ハ同地方ニ於ケル秩序恢復セラレ外國人ノ生命財產ノ安全確保セララルニ至ルヲ
俟テ實行セラルヘキモノナリ又開放地ニ於ケル駐在ハ領事裁判權ノ撤廢ニ伴ヒ實行セラルヘキモノナリ

六、在支外國郵便局ノ撤廢

支那ニ於ケル郵便制度改善セラレ外國人ノ通信ノ安全ヲ保障セララルニ至ルヲ俟ツテ實行セラルヘキモノナリ

七、居留地ノ撤廢

内地雜居自由トナリ外國人ノ生命財產ノ安全確保セララルニ至ルヲ俟テ實行セラルヘキモノナリ

八、不割讓約定ノ廢棄

支那ノ施政鞏固トナリ自ラ保全スルノ實力ヲ具フルニ至ルヲ俟テ實行セラルヘキモノナリ乍去本件ハ日英佛三國共通ノ
問題ニシテ若シ英佛ニ於テ進テ本件ノ成立ヲ圖ラントスルカ如キ場合ニハ帝國政府ニ於テモ考慮ヲ加フルコトトナルヘ
シ

九、支那行政自主權回收問題

支那ニ於ケル關稅制度、鹽稅制度、郵政等ハ外國ト極メテ密接ノ關係ヲ有シ且今日相當ノ成績ヲ舉ケ居レルハ全ク外國人ノ協力ニ依ル次第ナルニ付今直ニ之ヲ支那側ノ手ニ移スハ却テ本來ノ目的ニ反スルノ結果ヲ招ク虞アレハ將來支那カ此等行政上ノ能力ヲ完備スルニ至ルヲ俟チ實行セラルヘキモノナリ

十、關稅自主權回收問題

關稅自主權回收問題ハ各國就中日本ノ對支貿易ニ至大ノ關係アリ今後一般ニ支那ニ於ケル稅制整理問題ノ進捗ト相俟チ各方面ニ互リ十分調査研究ヲ重スルコト緊要ニシテ一朝ニシテ能ク決シ得ヘキ問題ニアラス

十一、支那借款鐵道統一問題

支那鐵道國際管理案ハ遽ニ帝國ニ於テ贊同スルコトヲ得ス尤モ其ノ範圍ヲ借款鐵道ニノミ限局スル程度ノモノナラハ攻究ノ價值アルモ其ノ實行ノ方法組織等ハ十分調査ヲ要スヘシ

十二、阿片問題

日本トシテハ既定ノ方針ヲ遂行シ度所存ナルモ最近支那自身盛ニ阿片ヲ栽培シ又ハ哈爾濱、新嘉坡ヨリ密輸セラルル狀態ナルヲ以テ是等ニ對シ嚴重取締ヲ加フルニ非サレハ禁烟ノ目的ヲ達スルヲ得サルノミナラス公平ヲ缺クノ結果ニ陷ルヘキヲ以テ各國共同シテ一律禁絶ノ措置ニ出ツルコトトシ度シ

(丙) 會議ニ於テ變更ヲ許ササル事項

帝國ニ取リ重要ノ關係アル既成事實又ハ特定國間限リノ問題カ會議ニ於テ審査裁決セラルルカ如キコトニハ同意スルヲ得サルモ會議ノ形勢如何ニヨリテハ之ヲ討議ニ附シ十分帝國ノ立場ト事態ノ真相トヲ説明シ一般ノ諒解ヲ求ムル爲メ機宜ノ措置ヲ執ラレ差支ナシ尙此ノ程ノ事項ニ屬スル具體的問題ノ重ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

一、山東善後措置問題

曩ニ廟議決定ノ措置案大綱ニ基キ更ニ公正寛容ヲ本旨トスル細目案ヲ決定シ閣下等ノ御含迄追テ申進スル所有之ヘキニ付閣下等ハ必要ノ際之ニヨリ帝國ノ立場ヲ説明セラレ差支ナシ

二、大正四年日支條約效力問題

同條約效力其ノモノヲ否認セントスルカ如キ主張ニハ斷シテ同意スルコトヲ得サルモ會議ノ情勢如何ニ依リテハ或程度迄交譲ノ精神ヲ示スコト必要ナルヘク又討議ノ際應酬上帝國政府ノ意嚮ヲ知悉シ置カルル方便宜ナル點モ有之ヘク旁々本件ニ關スル具體的問題ニ付左記方針御含置ノ上必要ニ應シ可然措置セラレ度シ

(イ) 滿蒙ニ於ケル左記優先權ハ之ヲ主張スルノ意思ナキコトヲ説明セラレ差支ナシ

(一) 鐵道借款優先權

(二) 課稅擔保借款優先權

(右ニ優先權ハ新借款團成立ノ結果事實上消滅ニ歸セルト同様ナリ)

(三) 政治、軍事、財政、警察ノ顧問僱聘優先權

(ロ) 所謂對支第五號要求ハ之ヲ他日ノ商議ニ讓ルヘシトノ留保ハ之ヲ援用スルノ意思ナキコトヲ説明セラレ差支ナシ

三、關東州租借地問題

帝國政府ハ本問題租借期限ニ關スル日支條約ノ規定ヲ翻シ又ハ租借地ヲ還付スルカ如キ提言ニハ到底同意スル能ハス

四、南滿洲鐵道(安奉線ヲ含ム)中立乃至回收問題

帝國政府ハ南滿洲鐵道ノ「ステータス」ヲ變更セントスルカ如キ提言ニハ到底同意スル能ハス

(丁) 石井ランシング協定問題

本協定ノ所謂特殊利益ノ釋義ニ關シテハ日米ノ了解ニ相違アルカ如シト雖モ其ノ範圍強テ政治的若クハ經濟的何レカニ局限スルノ要ナク畢竟地理的關係ヨリ生スル特殊關係ナリト解スルコト至當ナリ從テ米國ニシテ之カ廢棄ヲ主張セサル以上

何等ノ顧慮ヲ要セス現狀ノ儘トシ又同國ニシテ之レカ廢棄ヲ主張スルニ於テハ之ニ同意セラレ差支ナシ

(戊) 廣東政府代表者派遣問題

廣東政府ハ未タ諸外國ノ承認ヲ經タルモノニ非サルヲ以テ其ノ代表者ハ今回ノ會議ニ公然參列シ得ヘキ資格ヲ有スルコトナキモ日本ヨリ進テ右資格問題ノ如キヲ主張スルコトハ避ケラレ度シ尤モ同代表者ヲ會議ニ招致シ爲參考其ノ意見ヲ聽取スルコトニハ強テ反對スルニ及ハス

附、朝鮮問題

今回ノ會議ヲ機トシ朝鮮人中獨立ノ氣勢ヲ揚ケントシテ妄動ヲ試ミ之レカ爲メ場合ニ依リ所謂朝鮮問題ノ會議ニ上議セラルル事ナキヲ保セス如此場合ニハ本問題ノ如キハ附議セラルヘキモノニ非ストシテ直チニ拒斥セラルヘシ

西比利亞
問題

(三) 西比利亞問題

(甲) 進テ主張スヘキ事項

西比利亞問題ニ關シテハ撤兵問題、尼港問題等極メテ微妙ナル問題存スルヲ以テ我方ヨリ進テ問題ヲ提起セサルヲ得策トス從テ我ヨリ進テ主張スヘキ事項ナシ

(乙) 討議ニ異議ナキ事項

一、領土保全

主義上贊成セラレテ可ナリ

二、行政權保全

主義上贊成セラレテ可ナリ尙會議ノ情勢上西比利亞駐兵及「サガレン」占領等ニ關聯シ説明ヲ要スル場合ニハ我行動施設ノ内政干涉若クハ行政權侵害ニ非サル次第ヲ明カニセラレタシ

三、門戶開放——商業及產業上ノ機會均等

主義上贊成セラレテ可ナリ但シ我漁業權ノ如キ承認サレタル條約上ノ既得權ヲ除クコト

四、西比利亞共同管理

左ノ趣旨ニヨリ之ニ反對セラレタシ

露西亞ハ露西亞人ヲシテ之ヲ治メシメサルヘカラス今ヤ歐露ニ於テモ極東露領ニ於テモ既ニ事實上ノ政府存在スルニ拘ハラス之ヲ無視シテ共同管理ヲ行フハ内政干涉ノ最モ甚シキモノニシテ之ニ贊成スルヲ得ス

五、西比利亞鐵道共同管理

露國側ヲ主體トシ重ナル利害關係國ト共同援助ヲ爲スハ異議ナキモ露國ノ權利ヲ無視スル如キ方法ヲ以テ列國共同管理ヲ行フコトニ對シテハ反對セラレタシ

六、「チタ」政府承認問題

「チタ」政府ノ承認ハ通商撤兵及尼港問題解決上帝國ニ取リ有利ナルモ我方ヨリ進テ之ヲ提議スルトキハ列國ノ誤解嫉視ヲ招ク虞アルニ依リ他ノ列國ニ於テ承認說ニ傾ク場合ニハ之ニ贊成スル態度ヲ執ラレタシ

(丙) 會議ニ於テ審査裁決ヲ容ササル事項

一、西比利亞撤兵問題

左ノ趣旨ニ依リ帝國ノ態度ヲ宣明シ本問題ノ審査裁決ヲ拒否セラレタシ

浦潮方面駐兵ハ朝鮮ニ對スル過激派ノ脅威及在沿海州多數居留民ニ對スル危險存在セル爲自衛上不得止ノ措置ニ出タルモノナルヲ以テ極東露領ノ政情安定シ右ノ脅威及危險除去セラレ本邦人カ自由ニ平和的經濟發展ヲ爲シ得ルニ至レハ直ニ撤兵スヘク既ニ東部西比利亞ニ於ケル事實上ノ統治團體タル齊多政府ト交渉ヲ開始シ正ニ本件ハ解決ノ緒ニ就キ居ル次第ナルヲ以テ列國ノ介入ハ徒ラニ事端ヲ滋クスルノミナラス却テ事件ノ解決ヲ遷延セシムルコトトナルヘ

キニ依リ本件解決ハ全然兩當事國間ノ交渉ニ一任スルヲ至當トス

二、薩哈噠占領問題

左ノ趣旨ニ依リ本問題ノ審査裁決ヲ拒否セラレタシ

本件ハ西比利亞共同出兵ト何等關係ナク全然尼港虐殺事件ニ起因スルモノニシテ國際法上不當ノ措置ニアラス本問題ヲ列國ノ審査裁決ニ附セムトスルカ如キ場合ニハ國論ノ沸騰其ノ極ニ達スヘキハ明カナルノミナラス事ノ性質上國威ニ關シ列國ノ干渉ヲ許スヘカラサルニ顧ミ本件ヲ列國會議ノ審判ニ附センコトハ我方ノ容認シ得サル處ナリ

帝國政府ニ於テハ前記ノ訓令ヲ帝國全權ニ手交シタル後該訓令ノ各項ニ付キ必要ナル説明ヲ附シ左記華盛頓會議帝國全權委員ニ對スル訓令説明書ヲ帝國全權ニ送付シタリ右ノ内太平洋及極東問題ニ關係アル事項ヲ摘記スレハ左ノ如シ

華盛頓會議帝國全權委員ニ對スル訓令説明書

第一、一般方針ニ關シテハ特ニ説明ヲ附セス

第三、太平洋問題

(甲) 會議ノ情勢ニ依リ主張スヘキ事項

一、列國領土ノ相互尊重

太平洋方面ニ於ケル列國ノ領土ヲ相互ニ尊重スルノ主義ヲ一般ニ認ムルコト

(一) 日英同盟協約ニ於テ日英兩國政府ハ東亞及印度ノ地域ニ於ケル兩國ノ領土權ヲ保持スルコトヲ約定シ日佛協約ニ於テハ日佛兩國政府ハ亞細亞大陸ニ於ケル相互ノ地位並領土權ヲ保持ヲ約シ又日米協商ニ於テハ日米兩國政府ハ太平洋方面ニ於ケル現狀維持ヲ目的トシ且他ノ一方ノ有スル所領ヲ相互ニ尊重スルノ強固ナル決意ヲ有スルコトヲ聲明セリ斯ノ如ク極東及太平洋方面ニ於ケル各國領土ノ相互尊重主義ハ既ニ數次ノ國際約定ニ規定セラレタルカ帝

國ハ今回ノ會議ニ於テ此ノ主義ヲ更ニ列國間ニ確認スルト共ニ其適用範圍ヲ太平洋方面ニ於ケル日、英、米、佛、蘭等諸國ノ領域全般ニ及ボスヘキコトヲ主張シ以テ太平洋方面ニ於ケル一般平和ノ確保ニ寄與セントス(但シ支那ノ領土保全ハ別個ノ問題トス)

(二) 而シテ帝國ノ立場ヨリ言フトキハ右主義ノ一般の確認ノ結果太平洋防備ノ制限乃至撤廢問題ノ解決ヲ資クルト同時ニ太平洋沿岸各地ニ喧傳セララル所謂日本ノ脅威ニ對スル危懼ノ念ヲ和ケ排日宣傳ノ口實ヲ除去スルノ效益アルヘシ

二、門戶開放——商業及産業上ノ機會均等

太平洋方面ニ於ケル列國ノ領土ニ門戶開放——商業及産業上ノ機會均等主義ヲ適用スルコト

(一) 日米協商ニ於テ兩國政府ハ「太平洋ニ於ケル兩國商業ノ自由平穩ナル發達ヲ獎勵スル」ノ希望ヲ聲明シタルカ國際交通ノ頻繁ナル今日ニ在テハ此種ノ約定ハ單ニ之ヲ日米兩國間ニ限局スルノ理由ナク而シテ各國民間ノ商業ノ自由平穩ナル發達ハ各國民ニ對シ商業及産業上衡平均等ノ地位ヲ承認スルコトニ依リ初メテ之ヲ庶幾シ得ヘシ

(二) 茲ニ所謂産業ハ出來得ル限り之ヲ廣義ニ解シ獨リ製造工業ノミナラス鑛山業、農業、林業、漁業等ヲモ包含セシムルモノニシテ又機會均等主義トハ外國人ニ對シ國民待遇ヲ與フヘキコトヲ主張スルモノニハ非スシテ果シテ單ニ外國人間ノ差別ヲ撤シ最惠國待遇ヲ一般ニ認メシメントスルモノニ過キス

(三) 門戶開放機會均等ハ素支那ニ於ケル列國勢力範圍内ノ商業及産業ニ關聯シテ唱道セラレタルモノナルモ近年之カ適用漸次擴張セラレ今ヤ或種ノ委任統治地域ニ及ヒ更ニ又今回會議ノ議題ニ關スル米國試案ニ徴スルニ同國ニ於テハ西比利亞ニモ其適用ヲ認メントスルカ如シ而シテ機會均等主義ヲ商工業ノミナラス更ラニ進テ天然資源ノ利用開發ニモ及ボスコトハ米國自ラ唱道スル所ニシテ例ヘハ巴里講和會議ニ於テ「ウキルソン」大統領ハ委任統治地域ニ天然資源ノ利用開發ニ關スル機會均等主義ヲ適用スルノ考案ヲ有シタルカ米國政府ハ蘭領印度石油問題ニ關シ客年

九月七日附及本年四月十九日附和蘭政府宛公文書ニ於テ重要ナル天然資源開發ニ關スル各國民ノ相互的自由ノ原則並ニ將來世界石油問題ニ對スル唯一ノ解決法トシテ機會均等主義ヲ主張シタリ

(四) 而シテ太平洋ニ於ケル機會均等主義一般ニ認メラルトキハ我國ハ之ヲ以テ例ヘハ佛領印度支那ニ於ケル關稅及通過稅ノ差別待遇「ニウ、カレドニア」ニ於ケル中途積換貨物ニ對スル差別課稅等ヲ改メシメ又英國自治領ニ於ケル特惠關稅、濠洲ニ於ケル中間稅、巴奈馬連河差別的通航稅等ノ賦課ニ反對スルノ根據トナシ得ルカ如キ實益アルヘシ

(五) 尙機會均等主義ニ關聯シテ議論スヘキ天然資源問題及外國人待遇問題ハ帝國政府ニ於テ特ニ重キヲ置ク所ナルヲ以テ以下項ヲ改メ之ヲ説明スヘシ

三、天然資源ノ利用分配

太平洋方面ニ於テ天然資源ノ利用分配ニ關シ列國間ニ共助協力主義ヲ認ムルコト

(一) 各國民ノ經濟生活上必要缺クヘカラサル原料ノ利用分配ハ今日衡平ヲ得サル狀態ニ在リテ動モスレハ國民生活ノ不安ヲ招キ延テ國際平和ニ對スル脅威タラムトスルカ故ニ一般平和ヲ確保センカ爲ニハ管ニ天然資源ノ開發利用ニ關シ他ノ各國民ニ均等ナル機會ヲ與フルノミナラス更ニ進ンテ其利用分配ニ就キ各國民間ニ共助協力ヲ爲スノ主義ヲ確立セサル可ラス

(二) 巴里聯合國經濟會議ニ於テハ聯合國間ノ天然資源ノ交換ニ關スル共助協力ノ必要ヲ認メ華盛頓國際勞働會議ハ失業問題ニ關聯シテ原料獨占問題ヲ討議シ「ジュネーブ」國際坑夫會議ハ「石炭問題」ヲ論シ又「ブラッセル」財政會議ニ於テハ刻下世界の經濟危機ノ一原因トシテ原料問題ヲ議シ更ニ又客年「ブラッセル」國際聯盟理事會ニ於テ伊國代表者ハ原料獨占ノ妨止ヲ主張シ今ヤ本問題ハ各國民ノ最重要ナル經濟問題トナレリ

(三) 而シテ帝國ハ由來天然資源ニ乏シク產業ノ發達及國民生活ニ缺クヘカラサル原料ハ主トシテ支那西比利亞並ニ

太平洋方面ニ於ケル列國領域ニ之ヲ仰カサルヘカラサル實狀ニ在ルヲ以テ原料問題ニ關シテハ國際間ノ交換ヲ出來得ル限り自由ナラシムルヲ以テ利益トスルコト勿論ナルカ是亦一方ニ於テ列國間ノ平和的關係ヲ増進シ戰後ノ經濟的回復ヲ速カナラシムル所以ナルカ故ニ帝國ハ右ノ方針ヲ以テ講和會議及國際聯盟諸會議等ニ蒞メリ然ルニ本問題ニ對スル各國ノ態度ヲ見ルニ伊國カ帝國ト立場ヲ同シクスルコトハ客年國際聯盟理事會ニ於ケル同國代表者ノ主張ニ依リ容易ニ之ヲ看取シ得可シト雖モ英米兩國ニ至テハ全然我ト利害ヲ異ニスルヲ以テ本問題ニ反對スルコトアルヘキヲ豫期セサルヘカラス

四、外國人待遇問題

列國ハ相互ニ太平洋方面ニ於ケル自國領域ニ於テ適法ニ入國セル他ノ各國民ニ對シ均等衡平ナル待遇ヲ與フルノ主義ヲ認ムルコト

(一) 各國民ノ自由平穩ナル交通ハ世界平和ノ基礎タルヘキコト言フヲ俟タス然ルニ今日太平洋沿岸諸國ニ於テ各國民ノ往來居住及營業等ニ關シ種々不當ナル制限行ハレ往々不幸ナル紛爭ヲ惹起シ爲ニ各國ノ輿論ヲ刺戟シ相互ニ猜疑厭忌ノ念ヲ招キ時トシテハ國際平和ヲ破ラントスル形勢ヲ生スルコト無キニ非サルハ恆久平和ヲ確保シ人類ノ幸福ヲ増進スル所以ニ非ス故ニ太平洋方面ニ於ケル恆久平和ヲ確保セントセハ此方面ニ於ケル列國ノ領域ニ於テ他ノ國民ニ對シ均等衡平ナル待遇ヲ與フルノ主義ヲ確立セサル可ラス唯今日ノ狀態ニ於テハ此方面ニ本邦人殊ニ勞働者往來ノ自由ヲ承認セシムルコトハ至難ニシテ此際我ヨリ入國自由ノ問題ヲ提議スルトキハ必スヤ英米國民ノ輿論ヲ刺戟スルヲ免レサルヘク強テ之ヲ固執スルニ於テハ他ノ我提案ニモ累ヲ及ホシ我立場ヲ困難ナラシムルノ虞アルヲ以テ今回ハ單ニ適法ニ入國セル外國人ニ對シ均等衡平ナル待遇ヲ與フルノ主義ヲ認メシムルコトヲ以テ甘セサルヲ得ス

(二) 前記主義ヲ直ニ實際問題ニ適用セムトスルトキハ或ハ各國既定ノ國策ニ反シ或ハ現行制度ノ改廢ヲ必要トスル

ニ至ルヘク而カモ之ニ對スル米國及英國自治領ノ態度ハ往年ノ日英通商條約濠洲加入問題及巴里講和會議ニ於ケル人種平等待遇問題ノ經過ニ照シ之ヲ察知スルニ難カラス今日一舉ニシテ我主張ノ貫徹ヲ期スルカ如キハ固ヨリ望ムヘカラサルモ帝國力敢テ本問題ヲ提起セムトスル所以ノモノハ正義人道ノ見地ヨリ英米兩國國民ノ反省ヲ促シ一度本主義ヲ確認セシメ以テ米國及英國自治領等ニ於テ本邦人ノ現ニ受ケツツアル法律上及事實上ノ各種ノ制限ヲ漸次除去シ少ク共之ヲ緩和スルノ素地ヲ作ラムトスルニ外ナラス

(乙) 討議ニ異存ナキ事項

一、委任統治地域割當問題

赤道以北舊獨領諸島全部ニ對スル我委任統治ハ他ノ舊獨逸殖民地ノ處分ト共ニ一九一九年五月七日聯合國最高會議ニ於テ決定ノ上翌八日公表セラレ次テ一九二〇年十二月十七日「ジュネーヴ」ニ於ケル國際聯盟理事會ノ決議ニ依リ確認セラレタリ

二、「ヤップ」島歸屬問題

「ヤップ」島ニ關シテハ講和會議中米國側ニ於テ同島カ國際通信上重大ナル關係アルヲ理由トシテ其國際管理ヲ主張シタリシカ前記五月七日ノ決議中ニハ同島ニ關シ何等明言スル所ナキ爲其ノ歸屬問題ニ關シ日米間ニ爭議ヲ生シタリ講和會議後米國々内ニ於テ此點ニ關シ夙ニ論議ヲ見タリシカ偶々昨年華府國際通信豫備會議ニ於ケル日米兩國委員ノ論爭ニ端ヲ發シ民主黨政府ハ同年十一月十二日附覺書ヲ以テ帝國政府ニ對シ五月七日決議ノ際「ウイイルソン」大統領カ「ヤップ」島ニ關シ留保スル所アリタリトノ理由ノ下ニ同島ニ對スル帝國ノ統治ヲ認メ難キ旨ヲ通牒シ來リ爾來兩國間ニ數次ノ交渉ヲ重ネ又他方ニ於テ米國政府ハ本年二月二十一日附通牒中ニ於テ國際聯盟理事會ニ對シ赤道以北舊獨逸領諸島全部ニ對スル日本委任統治ノ再議ヲ要求シタリ之ニ對シ國際聯盟理事會ハ同年三月一日附公文ヲ以テ委任統治地域ノ割當ハ最高會議ノ職權ニ屬シ同理事會ハ單ニ其決定ニ基キ統治條項ヲ制定シタルニ過キス且C式委任統治條項

ハ既ニ決定済ニシテ之ヲ再議シ得サル旨ヲ回答シタルカ共和黨政府ニ至リテハ本年四月五日附日英佛伊諸國宛通牒ニ於テ從來ノ論鋒ヲ一變シ舊獨逸海外領土ノ處分權ハ一ニ同盟及聯合國ノ戰勝ニ依リテ獲得シタル所ナルヲ以テ此勝利ニ參加シタル米國カ右處分權ヲ有スルコトハ當然ノ事理ナリトシ米國ノ同意ナクシテハ舊獨領ノ如何ナル處分モ其效力ヲ認メ難シト主張シ且五月七日ノ決議其者ノ效力スラ否認セムトスルノ態度ヲ示セリ仍テ帝國政府ハ米國ヲシテ「ヤップ」島ノ歸屬ニ對スル從來ノ異議ヲ棄テシムルト同時ニ同島ノ國際通信上ニ於ケル特殊ノ地位ニ顧ミ通信業務ノ關スル限リ米國及米國人ニ對シ一定ノ特權便宜ヲ與フルノ趣旨ニ依リ米國政府ト交渉シ來リタル結果最近ニ至リ同島ニ於テ海底電信無線電信其他一般電氣通信ノ關スル限リ米國及米國人ニ對シ(イ)何等ノ制限ナク居住スル權利及日本若ハ其ノ他ノ諸國又ハ其ノ國民ト全然同等ノ基礎ニ於テ動産不動産ヲ取得シ所有シ若ハ占有スル權利(ロ)米國ノ所有ニ歸スヘキ海底電線ヲ自由ニ運用シ得ル權利(ハ)海底電信ノ檢閱又ハ運用若ハ通信ニ對スル監督ヲナササルコト(ニ)人及財産出入ノ自由(ホ)海底電線ノ運用並財産人若ハ船舶ニ對スル免税(ヘ)警察法規ハ無差別ナルコト等ノ特權免除便益等ヲ與フルコトヲ承認シ彼我ノ見解漸ク接近シタルニ偶々米國ヨリ我委任統治條項ノ承認ニ關シ新ナル條件ヲ要求シ來リタル爲未タ全局ノ解決ヲ見ルニ至ラサル次第ナリ

三、赤道以北舊獨領委任統治條項

我委任統治地域ニ適用セラルヘキ統治條項ハ前記ノ如ク昨年十一月十七日「ジュネーヴ」ニ於テ國際聯盟理事會ニ依リ決定セラレ帝國政府ニ於テハ樞密院ニ報告ノ上本年四月二十九日之ヲ公布シ現ニ同條項ニ準據シテ右地域ノ施政ヲ行ヒツツアリ即チ同條項ハ已ニ確定ノモノニシテ聯盟規約所定ノ手續ニ據ルニ非サレハ之ヲ變更スル能ハサルコト勿論ナリ然ルニ米國政府ハ未タ會テ右條項ヲ承認シタルコトナシトノ理由ノ下ニ同國ニ對シテハ其效力ヲ認メ難キコトヲ主張シ最近ニ至リ「ヤップ」問題ニ關スル本年九月十五日附國務長官覺書中ニ於テ米國ノ我委任統治承認ノ條件トシテ(イ)聯盟加入國ト同様我委任統治條項ノ利益ニ均霑スルコトヲ要求セルノミナラス(ロ)日本ノ委任統治地域ニ於ケル

米國宣教師ノ慈善及教育事業保護ニ對スル保障(ハ)我委任統治地域ニ於ケル獨占的利權又ハ天然資源獨占ノ禁止(ニ)委任統治地域ニ對スル日米間諸條約ノ適用(ホ)米國臣民及船舶ノ出入自由(ヘ)米國ノ條約上ノ既得權ノ維持尊重(ト)米國ニ對スル委任統治行政報告提出等帝國單獨ニテハ決定シ難キ諸事項ヲ要求シ來リ未タ解決ヲ見ルニ至ラス

四、通商上ノ機會均等問題

帝國政府ハ國際聯盟ノ根本精神上將又聯盟規約ノ解釋上C式委任統治地域ニ於テ通商及貿易上ノ機會均等主義ヲ適用スルノ至當ナルコトヲ信シ委任統治組織委員會聯合國最高會議國際聯盟理事會ニ於テ屢々之ヲ主張シ且本問題ニ關シ久シク英國政府ト交渉ヲ重ネタルモ主トシテ濠洲ノ反對ノ爲容易ニ關係國ノ同意ヲ得ルニ至ラス帝國政府ハ和衷共同ノ精神ヲ重シ且本問題ヲ未解決ノ儘存置セシムルヲ欲セス英國政府ヨリ日本人ハ赤道以南委任統治地域内ニ於テ統治國內ニ於ケルヨリモ劣等ナル待遇ヲ受クルコトナカルヘキ旨竝日本人ノ既得權ハ尊重セラルヘシトノ保障ヲ得テ客年十二月十七日「ジュネーヴ」ニ於ケル國際聯盟理事會ニ於テ機會均等保障ニ關スル規定ヲ包含セサル統治條項ヲ承認スルト同時ニ機會均等問題ニ關スル我從來ノ主張カ正當ナルコトノ確信ヲ有スル旨竝右ノ形式ニ於ケル委任統治條項ノ決定ハ委任統治地域ニ於テ帝國臣民力差別的且不利益ナル待遇ヲ受クルコトヲ帝國政府ニ於テ承認シタルモノト看做スヲ得サルコト又帝國政府ハ帝國臣民力從來是等ノ地域ニ於テ享有シタル權利及利益ノ充分尊重セラルヘシトノ主義ヲ右決定ニ依リテ拋棄シタルモノニ非サルコトヲ宣言シタリ

前記英國政府トノ交渉ノ行懸アルニ鑑ミ今回ノ會議ニ於テ帝國ヨリC式委任統治地域ニ對シ機會均等主義ノ適用ヲ主張スルコトハ國際信義上避クルヲ可トスルモ若シ米國其ノ他何國カヨリ斯ル提議アルニ於テハ其ノ赤道ノ南北ヲ問ハス南太平洋ニ於ケル委任統治地域一般ニ適用セラルルモノナル限り我統治地域ニ付之ヲ承諾スルモ何等不利アルヲ見サルナリ

五、「ヤップ」海底電線處分問題

一九一九年五月三日ノ巴里議定書ニ基キ舊獨逸領海底電線ノ處分及運用其ノ他ノ問題ヲ商議スル爲昨年十月華盛頓ニ

開催セラレタル國際通信豫備會議ニ於テ日本ハ當初「ヤップ」ヲ中心トスル舊獨逸三線全體ニ對スル所有權ヲ要求シ之ニ對シ米國政府ハ最初「ヤップ」上海線ヲ戰前狀態ニ復舊セシメムコトヲ主張シ且同線ノ所有ヲ要求セムトスルノ氣勢ヲ示シ次ニ「ヤップ」關係三線ノ日米共有ヲ提唱シムルカ最後ニハ單ニ「ヤップ」グアム線ヲ要求シ日米間ニ累次折衝ヲ重ネタルモ英佛兩國ニ於テモ太平洋海底電線ニ對スル各自ノ要求ニ付多大ノ讓歩ヲナシ帝國獨リ當初ノ要求ヲ固執シ得サル形勢トナリタルヲ以テ日米間ノ妥協案トシテ「ヤップ」上海線ハ日本ニ「ヤップ」グアム線ハ米國ニ又「ヤップ」メナド線ハ和蘭ニ夫々分配シ各國ハ各々其ノ所有線ノ兩端ヲ運用スルコト竝和蘭支那及大北電信會社ノ關スル事項ニ就テハ是等各關係者ノ承諾ヲ得ル爲主タル同盟及聯合國ニ於テ共同ニ盡力スルコト等ニ關シ日米間ニ略合意成立セルモ前記ノ如ク米國ハ電線ノ處分以外ノ問題ヲ提起セル爲ニ未タ全局ノ解決ヲ見ルニ至ラス一方ニ於テ和蘭政府ハ講和會議中ヨリ數回ニ互リ「ヤップ」海底線ニ關スル自國ノ權利ヲ主張シタルカ帝國政府ハ電線其ノ物ヨリモ和蘭政府度方面ニ對スル通信權ノ獲得ニ重キヲ置キ和蘭ノ利益ハ力メテ之ヲ尊重シ將來通信上ノ聯絡ヲ圓滑ナラシムル方針ヲ以テ昨年十一月同國ニ對シ交渉ヲ試ミタルモ先方ニ於テハ華府通信豫備會議ノ決定アル迄右交渉ヲ見合ハセ度旨回答シ來リ其儘トナリ居レリ

又支那政府ハ本年九月二十四日附在支帝國公使宛公文ヲ以テ(一)「ヤップ」上海線ノ處分ハ支那ノ同意ヲ要スルコト竝(二)同線ノ上海陸揚權ハ獨支開戰ノ結果消滅シタルコトノ二點ヲ舉ケ「ヤップ」海底線ノ處分方ニ對シ抗議シ來レルモ帝國政府ハ右ニ對シ何等回答ヲ發スルコトナク日米間ニ協定成立ノ上共同措置ニ出ツル方針ナリ

第四 支那問題

(甲) 會議ニ於テ進テ主張スヘキ事項

一、支那現在ノ政情不安ナル事實ヲ縷陳スルノ必要及平和的進步ノ助成

支那ニ於ケル政情安定ハ支那自ラ實行スヘキ問題ナリ外國ニ於テ之ニ干與スルハ當ニ目的ヲ達シ難キノミナラス却テ事態ヲ紛糾セシムル所以ナリ乍去支那國內ノ動搖ハ營ニ支那自身ノ不幸ナルノミナラス支那ニ利害關係ヲ有スル列強

就中日本ニ取リ其ノ影響スル所大ニシテ極東ノ平和ヲ保持スル見地ヨリ云フモ支那政情ノ安定ハ極メテ望マシキ次第ニ付支那現在ノ政情不安定ノ事實及之カ爲我國カ適切ニ不安ヲ感シ居ル次第ヲ詳述シ關係列強ト共ニ今回會議ノ機會ニ於テ恆ニ友邦ノ靜寧安固ヲ冀望スルノ誠意ヲ披瀝シ之カ爲眞摯ナル勸告其ノ他適切ナル措置ニ出テ支那側ノ反省ヲ促スコト緊要ナリ

列國ニ於テ支那ノ平和的進歩ニ對シ助勢スルノ必要ナルハ是亦絮說ノ要ナク殊ニ團匪賠償金ヲ還附シ之ヲ文化的施設ニ投スルハ曩ニ米國政府ノ實行セル所ニシテ同國ニ於テハ最近其ノ殘餘ヲモ還附セムトノ議アリ帝國政府モ其ノ處分ニ付テハ既ニ大正七年九月二十一日我外務大臣ヨリ支那公使ニ對シ團匪賠償金ノ請求權ヲ拋棄スルノ内意ヲ有ス其ノ辦法ハ別ニ考慮ヲ盡シテ決定スヘキ旨聲明シ更ニ第四十一議會ニ於テ我總理大臣及外務大臣ヨリ團匪事件賠償金問題ハ日支ノ間ニ變更スヘカラサル關係トナリ居ル旨聲明アリ且ツ本年七月二十二日外交調查會ノ決定モアリ本問題討論ニ上リタルトキハ帝國政府ニ於テモ已定ノ方針ニ從ヒ之ヲ支那ノ爲メ處分スル意向アル旨聲明セラレ差支ナシ

經濟的方面ニ於テ平和的進歩ヲ助成スルノ一方法トシテ新借款團ニ依リ混沌タル支那ノ經濟狀態ヲ改造シ且歐洲戰爭ノ爲中絶シ居レル鐵道敷設ヲ促進シ其ノ經濟的能率ヲ増進スルハ管ニ支那國民ノ福祉ヲ増進スル所以タルノミナラス世界ノ等シク其ノ利惠ニ浴スル所ニシテ殊ニ支那ト密接ノ關係ニ在ル日本國民ノ經濟的生存ノ確保ノ爲ニハ頗ル緊要事ナリト謂ハサルヘカラス

二、支那領土ノ保全機會均等門戶開放主義ヲ尊重スルコト

右ハ帝國ト列國トノ條約ニヨリ公約セラレ且ツ帝國累次ノ聲明ニヨリ既定ノ根本義タリ特ニ聲明スル迄ノ事ナキモ今回會議ヲ機トシ更ニ之ヲ確認セムコトハ帝國政府ニ於テ之ヲ辭スヘキ理由ナシ

三、支那自身ノ開放

列國ニ於テ支那ノ平和的進歩ニ對シ文化的方面ト相併ヒ經濟的方面ヨリモ助成シ其ノ經濟的能率ノ増進ヲ圖ラムトス

ル以上支那自身トシテモ鐵道閉鎖防穀令等ノ排他的乃至閉鎖的施設ヲ撤廢シ支那自身ノ福利ヲ確保増進スルト共ニ各國モ其ノ利惠ニ浴セシムルノ方途ニ出ツルコト當然ノ施措ナリ唯鐵道問題ト云ヒ防穀令問題ト云ヒ之カ爲メ最モ利益ヲ感スルハ日本ニシテ現ニ日支間ニ懸案トナリ居レル事實ニ顧ミ日本カ支那自身ノ開放ヲ提言スル時機方法ニ付テハ十分會議ノ情勢ニ注意スルコト肝要ナルヘシ

(乙) 會議ニ於テ議題トナリタルトキハ一定ノ保障又ハ條件ヲ附スルニ非サレハ贊成シ難キ事項

一、領事裁判權ノ撤去

領事裁判權ノ撤廢ハ各國ト支那トノ通商條約ニ於テ支那司法制度完備ノ曉ハ領事裁判權ヲ撤廢スヘキ旨明約アリ且巴里平和會議以來帝國政府既定方針ノ一ニシテ本年七月二十二日外交調查會ニ於テモ之ヲ決定セリ但シ領事裁判制度ノ撤廢ヲ實現セムトセハ先ツ支那ノ法典編纂裁判官ノ陶冶、裁判組織ノ改善、警察機關ノ刷新等支那司法制度ノ完備ヲ期セサルヘカラス而カモ現下ノ情態ニ於テハ右制度ノ完備ヲ單リ支那ノ努力ニ俟ツニ於テハ領事裁判制度撤廢ヲ實現シ得ルノ日ハ前途頗ル遼遠ノ觀ナクハ非サレハ列國ニ於テ愈々之カ撤廢ニ贊成シ其ノ實現ヲ期セムトセハ自然其ノ司法制度完備ノ爲メ必要ナル準備行爲ニ對シ援助ヲ與フルコトヲ要スルニ至ルヘキモ之トテ其ノ完成ニハ相當ノ年月ヲ俟タサルヘカラス

二、在支那外國軍隊ノ撤廢

日本ノ支那ニ於ケル軍隊ハ北支駐屯軍、漢口派遣軍、山東ニ於ケル派遣軍、南滿州ニ於ケル駐屯軍等ニシテ其ノ數約一萬二千餘人ナリ尙右ノ外北滿州地方ニ臨時派遣セラレタル部隊アリ右ノ内北支那駐屯軍ハ團匪事件ノ結果支那トノ條約ニ基キ各國ヨリ一律派遣セラレ居ルモノニシテ漢口派遣軍ハ第一革命ノ際居留民保護ノ爲派遣セラレタルモノナリ又山東派遣軍ハ日獨戰爭ノ結果ニ基クモノニシテ主トシテ山東鐵道警備ノ任ニ服シ居レリ又南滿州鐵道沿線ノ軍隊ハ「ポーツマス」條約及滿州ニ關スル日支條約ニ根底スルモノニテ北滿派遣軍ハ日支軍事協定ノ結果ニ依ルモノナリ尙

支那ニ於ケル外國軍隊ノ撤退ニ付テハ巴里講和會議ニ於テ帝國全權ノ聲明セル處ニシテ又本年七月二十二日外交調査會ノ決定ヲ見タル處ナリ

三、在支外國軍港ノ撤廢

日本トシテハ問題トナルハ旅順要港及青島ナリ青島ハ商港トシテ開放セラルヘキコト條約ノ明定スル處ニシテ又帝國政府既定ノ方針ナリ旅順口ノ要港モ今日ノ狀態ニ於テハ威海衛等ノ外國軍港撤去セラルルニ於テハ之カ保持ヲ固守スルノ必要ナシ

四、勢力範圍ノ撤廢

元來勢力範圍ハ支那分割政策ニ胚胎スル勢力伸張ノ一方法トシテ歐洲先進國ノ執レル施設ナリ其ノ意義明確ヲ缺クノ嫌アルモ最モ問題トナルハ機會均等、門戶開放主義ニ關聯シ經濟上排他主張ヲ爲スモノ之ナリ日本トシテ考慮ヲ要スルハ滿蒙山東及福建ナリ右ノ内山東ハ已ニ獨逸時代ノ一般優先權拋棄ヲ以テ日支直接交渉條件ノ一トシテ世界ニ宣明シ滿蒙及福建ハ新借款團ノ成立ニヨリ事實上大部分ノ解決ヲ遂ケタル次第ニテ殘ル問題ハ公募ニ依ラサル借款又ハ政府ノ保障ナキ借款ノ類ニ付優先權ノ規定適用アルコト竝一般借款ニ付支那トノ關係ニ於テ兎モ角支那側ヨリ先議セラルル權利ヲ保留(借款其ノモノハ共同ニ應セサルヘカラス)スル位ノコトニ止マルヘシ從テ日本カ勢力範圍撤廢案ニ贊成スルモ之カ爲メ受クル實害ハ差シテ大ナルモノニ非ス且ツ他國ノ勢力範圍撤廢ニ伴フ活動區域ノ擴大殊ニ揚子江沿岸ノ開放ハ帝國ニ取リ却テ利益ヲ齎スコトナルヘシ次ニ勢力範圍ヲ撤廢スルモ滿蒙ニ於ケル日本ノ國防並國民ノ經濟的生存ノ安全ヲ害スルカ如キコト等迄モ舉ケテ外國ノ自由活動ニ委セムトスル趣旨ニ非サルヲ以テ此ノ點ヲ明確ニ爲シ置クノ必要アルヘシ

五、在支外國警察官ノ撤退

主トシテ問題トナルハ支那内地ニ派遣若クハ駐屯シ居レル警察官ナリ右ハ外國人ノ生命財産ノ安全ヲ保護スル必要上

已ムヲ得サルニ出テタル權宜自衛ノ手段ニ外ナラス別ニ條約上ノ根據アル次第ニ非サルヲ以テ苟モ外國人ノ生命財産ノ安全ニシテ確實ニ保持セラルルニ至ラハ之ヲ撤去スルコト至當ナリ又開放地ニ於ケル外國警察官ノ駐屯ハ領事裁判ニ附隨スルモノニ付同裁判ノ撤廢ト共ニ撤去セラルヘキモノナリ尙支那ニ於ケル警察官ノ最モ多數ナルハ日本ナルモ之レ居留民ノ數他國に比シ著シク多數ナルニ伴ヒ自然ノ結果ナリ

六、在支外國郵便局ノ撤廢

支那ノ郵政漸次改善セラレ萬國郵便同盟條約ニモ加入スルニ至リ頻リニ外國郵便局ノ撤廢ヲ希望シ居レル次第ニテ遠カラス列國ニ於テ支那ニ於ケル外國郵便局ノ撤廢ニ付好意的考慮ヲ加フヘキ時機來ルヘク殊ニ支那政府ノ公認シ居ラサル郵便施設ノ如キハ最先ニ考慮ヲ要スル問題ナリト雖モ日本ハ支那ニ於ケル在留民ノ數ヨリ見ルモ又諸般通信關係頗ル緊密複雑ナルモノアリテ到底他列國ニ比スヘカラサルモノアルニ鑑ミ支那郵便制度改善セラレ外國人ノ通信ノ安全保障セラルル曉ニ至ラサレハ本件ヲ實行シ難シ尙郵便局撤廢ノ結果支那郵政權ニ相当發言權ヲ有スル佛國側ノ勢力ヲ増大スルカ如キ結果ヲ招クコトナキハ特ニ注意ヲ要スル問題ナリ

七、居留地ノ撤廢

支那ニ於ケル外國居留地ノ多クハ既ニ基礎定マリ居留民モ其ノ業ニ安シ居レル次第ニテ今日直ニ之ヲ撤廢スルニ於テハ種々ノ弊害ヲ生スルニ至ルヘシ從テ内地雜居自由トナリ支那ノ法權ニ服スルモ生命財産ノ安固ヲ確保セラルルカ如キ狀況ニ達シタル後ニ於テ始メテ撤廢セラルヘキモノナリ

八、不割讓約定ノ廢棄

不割讓約定ハ元來支那ノ領土保全ニ適ヘル措置ナルモ他方面勢力範圍主張ノ一根據トセラレタル次第ニテ今後支那カ自ラ其ノ領土ヲ保全スルノ實力ヲ具備スルニ至ラサルニ先チ之ヲ撤廢スルトキハ領土保全ノ本義ニ反スルカ如キ結果ヲ招ク虞ナシトセス去他ノ列強ニ於テモ領土保全ノ主義ヲ益々鞏固ニスルト共ニ不割讓約定ノ如キハ之ヲ廢止スル

ノ意向ナルニ於テハ日本ニ於テモ考慮ヲ加フルヲ辭セサルヘシ而シテ不割讓約定ノ重ナルモノハ英國ノ揚子江沿岸、西藏、佛國ノ雲南、廣東、廣西、日本ノ福建、山東ニ於ケル各不割讓約定之ナリ

九、支那ノ行政自主權回收問題

關稅及鹽稅ハ外國借款ノ擔保トナリ且ツ外國借款ノ元利ヲ支拂タル剩餘額ハ年々四千萬元ヲ超ヘ支那政府歳入ノ最モ主ナルモノニ屬シ又郵便電信制度ハ在留外國民ノ日常生活ニ極メテ密接ノ關係アリ然ルニ今支那側ノ手ニ移スモ今日ト同様ノ成績ヲ擧ケ得ルコトハ到底期待シ難ク鹽稅關稅ノ收入ヲ減少シ普ニ支那政府自身ノ歳入ニ益々欠缺ヲ生セシムルノミナラス外國借款ノ擔保ヲ薄弱ナラシメ又郵便電信ノ確實ヲ缺クニ至ラハ在留外國人ノ被ル不利不便ハ特ニ絮說ノ要ナカルヘシ之支那側カ行政自主ノ能力ヲ具フルニ至ルヲ俟ツノ必要ナル所以ナリ

十、關稅自主權回收問題

支那ハ外國トノ條約ニ依リ關稅ヲ五分以上ニ増徴スルコトヲ許サレサルノミナラス物價ノ騰貴ニヨリ實際ニ於テハ五分以下トナリ居リタル爲メ支那ノ對獨參戰ノ一條件トシテ列國ニ於テ現實五分ノ主義ヲ認メ協定ノ成立ヲ見タルカ更ニ其後價格變動ノ理由ニ據リ支那ヨリ再改正ノ提議ヲ爲シ目下同國ト各國トノ間ニ商議中ナリ此外英支間條約ニヨリ關稅ヲ一割二分五厘ニ増スト共ニ釐金ヲ撤廢スヘキコトヲ約シアリ之カ實行ニ付テモ十分各方面ニ亘リ調査研究ヲ要スル次第ニテ殊ニ關稅自主權ヲ認メ其ノ任意ニ稅率ノ制定ヲ許スカ如キハ到底一朝ニシテ實現シ得ヘキコトニ非サルヤ多言ヲ要セス

十一、支那借款鐵道統一問題

支那鐵道國際管理案ハ延テ支那ノ財政乃至行政共同管理案提唱ノ形勢ヲ招致スルカ如キ虞アルノミナラス同案ノ裏面ニハ往々南滿洲鐵道ノ如キ外國管理鐵道回收案ヲ含ムコトアリ從テ若シ今回ノ會議ニ於テ支那鐵道共同管理案ノ提出ヲ見ルカ如キ場合ニハ日本トシテハ先ツ範圍ヲ外國借款鐵道ニ局限スル程度ノ支那鐵道統一案ヲ以テ報酬スルコト然

ルヘシ尙此ノ程度ノモノナラハ鐵道系ニ依ル外國勢力範圍ノ色彩ヲ薄クシ交通上ヨリ觀タル鐵道ノ統一ヲ完クスルノ利便アルヘシ

十二、阿片問題

支那ニ於ケル阿片問題ハ列國ニ於テモ夙ニ支那ノ禁煙方針ヲ援助シ來リタルカ阿片ノ輸入、販賣、栽培、製造未タ全禁ノ域ニ達セス爲メニ支那ニ害スルコト多大ナリ帝國ニ於テモ從來專ラ人道上ノ見地ヨリ支那ニ於ケル阿片取締ニ付必要ノ措置ヲ講シ來リタルモ關東州青島及臺灣ニ於テハ從來或程度迄阿片ノ製造販賣及吸吮ヲ公認シ居リタル爲ニ列國ニ非難ヲ蒙リ從テ對支一般問題ニ付不利益尠カラサリシカハ大正八年閣議ニ於テ之カ撤廢ノ主義ヲ決定シ其後一定期間ニ關東州及青島ノ阿片制度ヲ全廢スルコト及其ノ實行ニ付テハ關係官廳ニ於テ相當處置スルコトニ決定シタリ然ルニ其後關係官廳ニ於テハ右方針ニ依リ實施シ居レルモ未タ充分ノ成績ヲ舉グルニ至ラス帝國政府トシテハ固ヨリ既定方針ノ遂行ヲ期シタキ意向ナルモ支那ニ於テ最近阿片栽培幾多ノ地方ニ行ハレ又南北兩方面ヨリ阿片ノ同國ニ密輸入セラレルモノ不少ルヲ以テ支那自身ノ阿片栽培及密輸入ヲ嚴重取締ルノ方途ヲ講シ列國ト共同シテ其ノ目的ノ達成ニ努ムルニ非サレハ成績ヲ舉グルコトハ不可能ナリ

(丙) 會議ニ於テ變更ヲ許ササル事項

一、山東問題

山東問題ノ經過ハ從來屢々公表セル通りナルカ曩ニ日本政府ヨリ支那政府ニ提出セル措置案大綱ハ明確ヲ缺ケル點アリトシ恰モ之ニヨリ日本ハ其ノ名ヲ棄ツルト共ニ細目ノ協議ニヨリ其ノ實ヲ收メトスルモノナルカ如キ印象ヲ米國支那其ノ他各方面ニ與ヘ居レルカ之レヲ唯抽象的ニ辯明スルノミニテハ其ノ效果甚タ少カルヘキニ付已定方針通公正寛容ヲ本旨トスル細目案ヲ取急キ審議中ナリ

二、大正四年日支條約效力問題

大正四年日支條約ニ對シ支那官民中其ノ取消乃至廢棄ヲ主張シ居レルモノ尠カラサルモ國際法上ノ理論ヨリスルモ條約ノ神聖ヲ保持スル點ヨリ見ルモ將又帝國ノ地位ヨリ云フモ會議ニ於テ同條約ヲ審查シ效力其ノモノニ影響ヲ及ボサムトスルカ如キ主張ニハ絕對ニ同意スルヲ得ス乍去同條約ニ付會議ニ於テ論議ヲ招クカ如キ場合ニハ單ニ已成事實ノ故ヲ以テ之カ論議ヲ避クルコトナク篤ト事態ヲ説明スルコト然ルヘク元來大正四年ノ條約ノ締結ハ日獨戰爭ニ依リ發生シタル時局ノ善後ヲ圖リ日支兩國ノ親交ヲ阻碍スルノ原因タルヘキ諸種ノ問題ヲ解決シ以テ兩國友好關係ノ基礎ヲ固クセムコトヲ期スルト同時ニ南滿洲及東部內蒙古地方ニ於ケル我地地位ヲ明確ナラシメ以テ從來日支兩國ノ間ニ諸種ノ問題ヲ生シ延テ兩國ノ國民の感情ニ好マシカラサル影響ヲ與ヘタル紛因ヲ一掃セムコトヲ庶幾シタルニ基キタルモノニシテ畢竟兩國ノ親交ヲ増進シ東亞ノ平和ヲ確保シ以テ一面歐洲戰爭ニ寄與セムコトヲ期シタルモノニ外ナラス且右日本ノ要求カ何等侵略の野心ニ出テタルニ非サルハ條約ノ内容ヲ公正ニ解釋判斷セハ自ラ明瞭ナル次第ナルモ當時一種ノ宣傳ノ結果其タシク誇張セラレ且帝國ノ全然念頭ニナキ各種ノ意味ヲ附セラルルニ至リタル次第ニ殊ニ種々非難ノ中心トナリ居レル最後通牒ノ件ハ支那膠州灣ノ無條件還付ヲ要求スル等本問題解決ニ對スル誠意ヲ缺キタル結果日本ハ該交渉ヲ無意味ノモノニ終ラシメ東亞ニ於ケル日本ノ地位ヲ危殆ナラシムルモ尙之ニ甘スヘキカ又ハ最後通牒ニヨリ支那ノ反省ヲ促カスカノ二者其一ヲ選フノ立場ニ在リシナリ（大正四年五月七日最後通牒ニ關スル日本政府聲明書參照）尙會議ノ情勢如何ニ依リテハ更ニ一步ヲ進メ大正四年條約實施ニ關スル帝國政府ノ方針カ漸次寬容トナリ現ニ左ノ如キ意向ヲ有スルコトヲ明ニスルモ差支ナシ

（イ） 右條約ニ依リ帝國カ滿蒙ニ於テ保有スル優先權中

（一） 鐵道借款優先權

（二） 課稅擔保借款優先權

ニ付テハ支那ハ南滿洲及東部內蒙古ニ於テ鐵道布設ニ付外資ヲ要スルトキ又ハ此等ノ地方ノ各種課稅ヲ擔保トシ

テ外國借款ヲ起ストキハ先ツ日本資本案ニ相談スルコトト爲リ居ル處日本ハ新借款團成立ノ際日本ノ經濟の生存及國防ノ安全ニ影響ヲ及ボササル限り一切ノ借款ヲ右團體ノ範圍內ニ提供シタルヲ以テ前掲利權モ事實上多クノ場合ニ於テ新借款團ノ範圍內ニ包含セシムルコトト爲リタルニ付此ノ上強テ右優先權ヲ固持スルノ實益尠カルヘシ

（二） 政治財政軍事警察等ノ顧問傭聘優先權

ニ關シテハ支那ヲシテ此等顧問ヲ傭聘スル場合ニハ日本人ヲ最先ニ傭聘スヘキコトヲ約セシメタルニ止マルヲ以テ支那側ニ於テ外人顧問傭聘ノ意思ナキトキハ何等實益ナキ取極ニシテ現ニ同條約締結後日本人顧問ノ傭聘セラレタルモノ僅ニ二三名ニ過キス且之ヲ實際ニ顧ミルニ假令此ノ種ノ約束存在セストモ日支ノ關係ニシテ一層改善セラルルニ至ラハ必要ニ際シ日本人顧問ヲ入ルルコトハ決シテ難事ニ非ス滿洲カ日本ニ取リ極メテ緊密ノ關係アルコトハ列國ノ已ニ諒認シ居レル處ニシテ萬一重要ナル地位ニ外國人ノ傭聘ヲ見ムトスルカ如キコトアラハ本取極ノ有無ニ拘ハラス日本ヨリ抗議ノ途アルヘシ

（ロ） 所謂第五號ニ關スル留保

所謂第五號ハ大正四年日支交渉中最モ世界ノ物議ヲ醸シタル處ニシテ再ヒ其ノ留保ヲ基礎トシテ支那側トノ間ニ交渉ヲ開始スルカ如キコトアラハ再ヒ當年ノ論議ヲ招クコト疑ナク營ニ目的ノ貫徹ヲ期シ難キノミナラス大局上極メテ有害ナリ果シテ然ラハ斯ル留保ハ之ヲ援用セサルヘキ旨聲明スルコト却テ得策ナリ但シ右ハ第五號ノ留保ヲ援用セスト云フニ止マリ將來第五號ノ規定ト同種ノ問題ニ付別箇ノ見地ヨリ支那側トノ間ニ交渉ヲ開クコト迄モ自制セムトスル趣旨ニ非サルコト勿論ナリ

三、關東州租借地問題

列國カ支那ニ於テ有スル租借地ハ關東州ノ外英國ノ威海衛、九龍及佛國ノ廣州灣ナルカ來ルヘキ太平洋會議ニ於テ威

海衛等ノ租借地還附問題ノ提議アルコト無キヲ保セスト雖英佛ノ保有スル前記三租借地ハ單ニ他ノ租借地ニ對スル權衡ヲ口實トシテ獲得シタルニ過キサルニ反シ關東州ハ日本ノ國運ノ勝レタル日露戰爭ノ結果取得セルモノニテ全然取得ノ事由ヲ異ニスルノミナラス英佛等ノ租借地ハ各自國人ノ在住僅ニ數百ニ出テサルニ關東州ニハ帝國居留民五萬以上ニ達シ之等多數邦人ノ經濟的利益保護ノ見地ヨリスルモ將又帝國國防ノ關係ヨリ見ルモ帝國政府ハ同租借地ノ期限前返還ヲ今日ヨリ豫定スルカ如キ主張ニハ到底贊意ヲ表スルヲ得ス

四、滿洲鐵道(安奉線ヲ含ム)中立乃至回收問題

支那ニ於ケル外國ノ所有乃至管理スル鐵道ハ南滿鐵道(日)山東鐵道(日)東支鐵道(露)雲南鐵道(佛)及廣東九龍鐵道ノ一部(英)ナルカ今回ノ會議ニ於テハ往年「ノツクス」ノ滿洲鐵道中立ニ關スル提議ト類似ノ提案ナキヲ保ス能ハサル處南滿鐵道ハ日本ノ國運ヲ暗セル日露戰爭ノ結果日本ノ手ニ歸シタルモノニテ滿洲ニ於ケル經濟的經營ノ根幹ナルノミナラス國防上重大ノ關係ヲ有シ現ニ我滿鐵ノ地位ニ對シテハ對支新借款組織ニ富リ關係列國ヨリ明確ナル保障ヲ得テ其ノ期限ノ到來前南滿鐵道ノ「ステータス」ヲ變シテ或ハ之ヲ中立トシ或ハ之ヲ日支合辦トシ或ハ之ヲ支那ニ回收セシムル等ノ提案ニ對シテハ帝國政府ニ於テ絕對ニ考慮ヲ加フルヲ得ス

(丁) 石井「ランシング」協定問題

本協約ノ所謂特殊利益ノ釋義ニ關シ日米間ノ相違アリ米國側ハ之ヲ輕ク解シテ經濟的ノ意味ニ過キスト爲シ日本側ハ之ヲ重ク解シテ其ノ直接ノ目標ヲ政治的ノモノト爲スモ強テ之ヲ政治的若クハ經濟的ノモノト限ルノ要ナク畢竟地理的接壤ノ關係ヨリ生スル特殊關係ナリト解スルコト至當ナリ元來該協定ハ既存ノ了解乃至自然的事態ヲ確認セルモノニ過キス其ノ特ニ文書上ノ協定ヲ見タルハ流布セラレタル有害ナル風說ヲ一掃センカ爲日米兩國政府ノ等シク懷抱スル希望及意嚮ニ付更ニ公然ノ宣言ヲ爲セルモノニ外ナラス從テ假令之ヲ撤廢スルモ日支兩國カ地理的ニ相接觸スルノ結果日本カ現實ニ支那ニ對シテ有スル特殊關係ハ之カ爲メ消滅ニ歸スルモノ非サルハ勿論ナリ又今更右協約ノ撤廢ヲ宣言セハ世

上之ニ對シ種々ノ意味ヲ付シ日米兩國ノ關係ニ疑惑ヲ挾ミ無益有害ノ紛糾ヲ生スル虞アリ之レ兩國親善ノ確立増進ヲ期スル所以ニ非ス從テ帝國政府ハ今回ノ會議ニ於テ此ノ協定ニ言及スルヲ欲セサルモ萬一米國側ニ於テ之カ廢棄ヲ希望スルニ於テハ之ニ同意スルノ外ナシ

(戊) 南方代表者ノ件

目下廣東政府ハ米國ニ代表者ヲ派遣シ北京政府否認ニ等シキ宣傳ヲ行フト共ニ北京政府ヲ以テ日本政府ノ傀儡ト爲シ山東問題二十一箇條問題等ニ付盛ニ排日言動ヲ逞ウシ居レルヲ以テ日本カ進ムテ南方代表者ヲ否認スルカ如キ主張ヲ爲ストキハ益々此ノ氣勢ヲ煽フル虞アルニ付該代表者カ會議ニ列席スルノ資格ナキコトヲ主張スルコトハ之ヲ避クルコトト致シタシ

第五、西比利亞問題

(甲) 進テ主張スヘキ事項

(乙) 討議ニ異存ナキ事項

一、領土保全

領土保全ハ主義上之ニ贊成ヲ表スルコト差支ナキモ薩哈噠占領及其前後處分トノ關係ニ關シ極メテ微妙ナル關係存スルヲ以テ此點ハ篤ト留意ヲ要ス

二、行政權保全

本問題若ハ他ノ問題討議ノ際會議ノ情勢上説明ノ要アル場合ニハ左記ニ基キ適宜説明ヲ與フルモノトス

(一) 西比利亞出兵關係

西比利亞駐兵ニ關聯シテ從來我方ニ對シ右黨援助等內政干涉ノ非難ヲ加ヘタルモノアルモ右ハ事實ノ真相ヲ誤レルモノニシテ我方ハ露國ノ內爭ニ對シテハ嚴ニ中立ノ態度ヲ持シ一黨一派ヲ援助スルカ如キコトハ力メテ之ヲ避ケタ

リ又我西比利亞駐屯軍ノ公安維持、武裝團體禁止、列車抑留等ノ措置ニ對シ行政權侵害トシテ攻撃シタルモノアルモ此等ハ何レモ露西亞側トノ諒解ニ基キ又ハ軍ノ存立上必要已ムヲ得サルニ出テタルモノナリ
左ニ五六ノ事實ヲ例示スヘシ

(イ) 千九百十八年八月共同出兵當時沿海州ニ於テハ社會革命黨「デルベル」政權ト右黨「ホルワット」政權トノ間ニ政爭行ハレ居タルニ對シ我出先官憲ハ嚴正中立ノ態度ヲ持シ好意的ニ兩者ノ任意妥協ニ盡力シタル後「オムスク」ニ於ケル「ウオロゴツキー」全露假政府トノ妥協ニ助力シタルニ過キス

(ロ) 同年十一月「コルチャツク」ハ英國等ノ援助ニヨリ「オムスク」政權ヲ掌握シタルカ當時後貝加爾地方ニ「セメノフ」アリテ兩者間ニ政爭ヲ演スルヤ我方ハ單ニ公平ナル平和的仲介者トシテ右兩者ノ和解ニ盡力シタリ

(ハ) 「コルチャツク」カ其極東代官軍務補佐官トシテ派遣シタル「イワノフリツク」將軍及其後任ノ兼總督トシテ任命シタル「ロザノフ」將軍ハ何レモ極左的政治ヲナシタル結果民心離反シ千九百十九年九月社會革命黨一派カ「ガイダ」將軍ヲ推シテ政變ヲ起シタルニ際シ日本軍ハ聯合軍ト共ニ嚴正中立ヲ守レリ當時「ガイダ」側ノ失敗ニ歸シタルカ我軍ノ公正ナル態度ハ同派ノ者モ之ヲ認メ居レリ

(ニ) 千九百十九年十一月「コルチャツク」沒落シ極東ニ於ケル共產黨ハ社會黨穩和派ト結合シテ翌年一月末反「ロザノフ」政變ヲ起シタルカ當時日本軍ハ社會黨側ヲ抑壓スルコト易々タリシニ拘ラス抱迄中立不干涉ノ態度ヲ持シタル爲「ロザノフ」失脚シテ「メドウヂエフ」政權ノ樹立ヲ見ルニ至レリ

(ホ) 千九百二十年秋極東各政權カ統一ヲ企圖スルヤ我方ハ極東政情ノ安定ヲ希望スル公正ノ見地ヨリ其運動ニ何等干涉スルコトナク各政權ニ對シ等シク交通通信等好意的便宜ヲ提供セリ

(ヘ) 「セメノフ」援助ハ元來英佛等ノ主唱ニ基キ聯合側ノ共同シテ行ヘル處ナルカ他ノ諸國カ幾何モナクシテ之ヲ中止シタルニ當リ我方ハ從來ノ情誼ニ顧ミ暫時若干ノ援助ヲ持續シタルモ其全局ノ形勢ニ鑑ミ全然之ヲ中止シタ

リ即チ千九百二十年七月帝國軍隊後貝加爾ヲ撤退スルヤ全ク彼ヲ其運命ニ委ネ何等援助干涉ヲ加ヘス其ノ後彼ハ逃レテ旅順ニ入りシカ我官憲ハ嚴重ニ監視シテ苟モ同地ヲ其策源地タラシムルカ如キコトナク本年五月「メルクロフ」政變ニ乘シ彼カ再ヒ沿海州ニ入ラント企圖スルヤ我方ハ百方之ヲ諫止シ其聽カスシテ旅順ヲ出發スル際斷然彼ニ何等ノ援助ヲ與ヘス且ツ一身上ノ保護ヲモ與フルコト能ハサルコトヲ言明シ其終ニ浦潮ニ入港スルヤ同地域官憲又同様ノ趣旨ヲ彼ニ通告シタリ

(ト) 浦潮政變

千九百二十一年五月「カツベリ」及「セメヨノフ」ノ殘黨カ右黨側ト提携シテ浦潮地方ニ政變ヲ起シ「メルクロフ」ヲ首班トスル沿黑龍政府ナルモノヲ樹立シタルニ際シ日本ハ全然中立不干涉ノ態度ヲ維持シタリ但シ該政變ニ際シ日本軍ノ双方ノ武裝ヲ解除シタルハ前年浦潮政府トノ間ニ締結シタル協定ニ基キ軍ノ自衛上竝ニ駐兵地域内ニ於ケル秩序維持ノ趣旨ニ出テタル至當ノ措置タルニ外ナラス

(チ) 千九百二十一年ノ初日本軍ハ烏蘇里鐵道列車ヲ抑留シ内政干涉ヲ敢テシタリトノ非難起リシカ右ハ一ニハ日本ノ出資ニヨリ購入シタル鐵道材料ノ聯合國管理區域外ニ搬出セラルルヲ防止シ二ニハ鐵道材料ノ散逸シテ日本軍ノ存立ヲ危クスルニ至ランコトヲ恐ルルニ出テタル自衛的措置ニ外ナラス前者ハ鐵道共同管理ノ關係上至當ノ事ニ屬シ後者ニ付テハ曩ニ浦潮政權トノ間ニ了解成立シ居リシモノナリ

(ニ) 薩哈噠占領關係

薩哈噠州二三地點ノ占領ハ尼港事件ノ善後處置ニ關シ實際上交渉シ得ヘキ政府ナキ爲メ已ムヲ得サルニ出テタル一時の措置ニシテ國際法上認メラレタル行爲タルハ勿論占領地ニ於ケル軍ノ行動及軍政實施ハ占領ノ法規慣例ニ準據スルモノニシテ之ヲ以テ内政干涉若ハ行政權ノ侵害トナスヲ得ス試ニ本件占領ニ關スル重ナル非難ト之ニ對スル反駁トヲ左ニ記述セン

(イ) 非難一、尼港事件ノ基因ハ尼港駐兵ニアリテ列國共同出兵ニ關聯ス薩哈噠占領ハ共同出兵ニ關スル協調ノ精神ニ反スルモノナリ(大正十年五月三十一日附米國々卿覺書)

辯 駁

尼港駐兵カ同地居留民ノ保護以外西伯利亞ニ於ケル列國共同出兵ニ伴フ軍事の必要ニ出テタルハ明ニシテ(「尼港事件經過」參照)從テ右駐兵カ共同出兵ニ關聯スルハ疑ナシト雖薩哈噠占領ハ全ク別個ノ問題ニ屬シ過激派軍隊カ日本守備隊ノミナラス同地ニ於ケル我居留民ノ大多數ヲ虐殺シタルニ基クモノニシテ而モ右虐殺カ我守備隊ノ挑戰ニ出ツルコトナク全然過激派軍隊ノ不法且殘忍ニ基因セルモノナル以上(後掲「非難ニ對スル辯駁」參照)虐殺ノ發生ト共同出兵トノ間ニハ何等ノ因果關係ヲ認ムルヲ得ス從テ尼港事件ノ善後方法ハ帝國政府單獨ニ之ヲ決定シ得ヘク右方法ノ採擇ニ付共同出兵ニ關スル協定又ハ宣言ニ拘束セラルヘキ理由ナシ

(ロ) 非難二、薩哈噠占領ハ其本質ニ於テ不法ナリ即チ

(1) 薩哈噠占領ノ基因タル尼港事件ハ駐留軍隊ノ内政干渉等其挑發ニヨリ惹起セラレタルモノナリ(露國側新聞論調)

(2) 尼港事件ハ匪徒ノ行爲ナルヲ以テ中央政府其責ニ任スヘキニ非ス從テ薩哈噠占領ハ不當ナリ(大正九年七月十六日附米國々務卿半公信)

(3) 本件占領ノ性質トシテ日本政府ノ説明スル平時復仇ハ相手國政府ノ國際義務違背ニ對シ之ト交渉ヲ盡シタル後始メテ爲シ得ル行爲ナルヲ以テ右ノ條件ニ合セサル薩哈噠占領ハ國際法上平時復仇ト認ムルヲ得ス

辯 駁

(1) 我守備隊ハ「チエツク」軍救援ノ目的達成ノ爲メ尼港ニ駐留セルト共ニ居留民保護ノ爲メ百方同市ノ安寧秩序ヲ維持セムコトヲ努メ大正九年二月ニ及ヒテハ右ノ目的ヲ以テ赤衛軍ト協定ヲ爲シタリ(「尼港事件經過」參照)

然ルニ赤衛軍ハ右協定ニ背キタルノミナラス日本軍ノ名譽及存立ト相容レサル武裝解除ヲ要求シタルヲ以テ兩者ノ衝突ヲ見ルニ至リタルモノニテ尼港守備軍ハ何等不法ノ行爲ニ出テタルニ非ス本件虐殺カ偏ニ赤衛軍ノ殘忍性ニヨルモノナルハ尼港及其ノ他各地ニ於ケル其行動ニ徴スルモ明白ナリ

(2) 尼港虐殺ノ主動者タル露人カ赤衛軍ノ一部トシテ軍隊組織ヲ有シタルコトハ(「一九百二十年七月九日「ニコライエフスク」地方臨時革命本部ノ命令ニヨル陸軍衛戍各管區ノ代表者及「ケルビ」村勞働者ヨリ構成セル國民裁判所ノ本件首魁「トリヤビーツイン」「レベデフ」等ニ對スル裁判々決中「トリヤビーツイン」ハ「ニコライエフスク」地方赤軍司令官トシテ在職中云々ノ記載アルコト(「同年五月二十日刊行尼港赤軍司令部機關紙「ブリズイフ」尼港赤軍司令部幹部トシテ「トリヤビーツイン」「シベヂエフ」等ノ姓名ヲ記載シアルニ徴シ明カナリ露國側ニ當時交渉スヘキ政府ナク從テ薩哈噠占領ハ變態ノ平時復仇ト目スヘキモノニシテ國際成例ニ乏シカラス(薩哈噠占領ノ法理先例參照)

(ハ) 非難三、薩哈噠占領ノ地域不當ニ廣汎ナリ(大正九年七月十六日附米國々務卿半公信)

辯 駁

北樺太ハ尼港ト同一行政區劃ニ屬スルノミナラス尼港ノ氣候及地理の關係上同港ヲ確實ニ占領スル爲ニハ北樺太ノ要地ヲ占領スルノ必要アルノミナラス居留民保護及漁業保護ノ爲ニモ必要ナリ「マゴ」「ソフィスク」「デカストリー」ノ占領モ右ト同一ノ理由ニ基ク

(ニ) 非難四、薩哈噠占領ノ施設ハ占領ノ性質上許容セラレタル範圍ヲ越エ永久的の施設ノ觀アリ(大正九年十一月十六日附英國大使來信及大正十年五月三十一日附米國々務長官覺書)即チ占領地域施設ニシテ戰時占領ニ關スル國際法規ヲ準用セルモノナリトセハ(「薩哈噠占領ニ關スル方針及施政狀況」參照)

(1) 司法ニツキ普通裁判所ノ職務執行及其ノ適用ニ關スル法律ノ效力ハ原則トシテ之ヲ停止スルヲ得ス只裁判官

職務ヲ拒ミ又ハ住民若ハ裁判官ノ舉動ニヨリ已ムヲ得サル場合ハ占領國ニ於テ普通事件ニ關スル自己ノ特別裁判所ヲ設ケ又ハ軍事裁判所ヲシテ普通事件ヲ兼轄セシムルヲ得又普通裁判所ニ於テ適用セラルヘキ民事刑事ニ關スル法律ハ原則トシテ領土所屬國ノ法律タルヘキナリ而シテ薩哈噠占領軍ハ前述ノ如キ手續ヲ盡シタル後派遣軍法院ヲ設置シタルモノナリヤ又民事令ニハ本令ニ特別ノ規定アル場合ノ外露國ノ法令慣習ヲ參照シ內國即チ日本ノ法律ニヨルヘキ旨ヲ定メ原則トシテ日本法律ヲ適用スヘキコトヲ規定セルハ占領ニ關スル國際法規ニ反ス

(2) 占領軍ノ權力ハ占領ノ基本觀念タル一時的性質ニ順應スヘキ拘束ヲ有シ絕對ニ支障ナキ限り占領地ノ現行法律ヲ尊重スヘキ義務ヲ有スルト共ニ國有財産ノ管理ニ就テハ利益權者ニ過キサルモノト考慮シ此等ノ財産ノ基本ヲ保護シ且ツ利益權ノ法則ニヨリ之ヲ管理スヘキナリ(陸戰法規第五十五條)然ルニ右軍令中鑛業權ノ移轉ヲ禁止スルノ條項ヲ有スル鑛業取締令、建物ノ建設ヲ目的トスル官有土地貸下規則等或ハ權利ノ根本ニ關シ或ハ一時的權力行使ノ本質ト相反スル法令アリ殊ニ亞港市街建築調查委員設置規定ノ如キ占領軍ノ施設トシテ極テ不適當ナルモノニシテ永久ノ占領ヲナサントスルノ觀アリ

(3) 占領軍ハ支障ナキ限り現行法律ヲ尊重スヘキ義務アル處新ニ制定セラレタル供託令、公證令、不動産證明令、利息制限令等ノ如キモノニ該當スル露國法令ハ果シテ占領地ニ存在セザリシヤ若シ存在シタリトスレハ新ニ此等ノ法令ヲ公布セルハ妥當ニ非ス

辯 駁

(1) 特別法院設置ノ如キハ露國中裁判官トシテ適任者ナカリシニヨリ止ムヲ得サルニ出テタリ
(2) 鑛業權移轉禁止ノ如キ當分ノ間之ニ就キ制限ヲ加ヘタルモノニシテ經過の規定ニ過キヌ又土地貸下ノ如キ借受人ノ危險ニ於テ爲スモノナリ

(3) 露國ノ法令ニシテ存在不明ナルモノアルト共ニ其存在明カナルモノモ著シク現狀ニ適合セス從テ新規定ヲ必要トセリ又占領地域内ニハ日本人ノ數露國人ヨリ多キニヨリ直ニ露國法律ニ依ラシムルコト困難ナリ

三、門戶開放——商業及産業上ノ機會均等

極東露領ニ於テハ産業上外國人ニ對スル制限尠カラス是前露政府カ右地域ニ對シ軍事の殖民地的施設ヲ爲シタルニ基因スルモノナルヲ以テ其門戶ヲ開放シ此等制限ヲ撤廢セシムルト同時ニ或一國或ハ一國民カ同地方ニ於テ何等カノ特殊又ハ獨占ノ利益ヲ獲得スルコトヲ得サル樣機會均等主義ヲ確立スルコト極メテ時宜ニ適スルモ例ヘハ我漁業權ノ如キ列國ニ於テ異議ナキ條約上ノ既得權 (Recognized vested treaty rights) ハ之ヲ除外スルヲ要ス

四、西比利亞共同管理

西比利亞共同管理ノ端ヲ開クトキハ極東ノ政局ヲ一層複雑ナラシムルノミナラス帝國ノ對露施設ハ事毎ニ列國ノ容喙掣肘ヲ受クルニ至ル恐アルヲ以テ之ニ反對スルコト必要ナルカ反對ノ理由ハ之ヲ內政不干涉主義ニ求ムルヲ得策トス

五、西比利亞鐵道共同管理

特ニ説明スヘキ事項ナシ

六、「チタ」政府承認問題

特ニ説明スヘキ事項ナシ

(丙) 會議ニ於テ審査裁決ヲ許ササル事項

一、西比利亞撤兵問題

行政權保全ノ項參照

二、薩哈噠占領問題

第三節 太平洋及極東問題ニ關スル華府會議ノ開始

(一) 太平洋及極東問題ニ關スル國務卿「ヒューズ」氏ノ陳述

十一月十二日
華府第一回
總會議

十一月十二日華府會議第一回總會議ニ於テ「ヒューズ」氏ハ太平洋及極東問題ヲ同會議ニ上議スルニ至リタル理由ヲ説明スル所アリ該演說ハ本會議ニ於ケル支那問題ノ論議ノ目的ト其ノ會議ニ對スル地位トヲ表明スルト同時ニ會議ノ始終ヲ通シ各參加國ノ同問題ニ對スル態度ヲ決シタルヤノ觀アルヲ以テ左ニ之ヲ指記スヘシ先ツ「ヒ」氏ハ

極東問題
ニ關スル
「ヒューズ」氏演
說

「抑々本會議ニ於テ太平洋極東問題ノ討議ヲモ含マシメタルハ軍備制限ニ關スル協定ヲ妨ケ又ハ之ヲ遲延セシメンカ爲メニ非スシテ本會議ヲ機會トシ極東ニ於ケル主義政策ニ關シ共通ノ諒解ヲ遂ケ各國軍備ノ根源ヲ減殺シ又ハ全然之ヲ除去シ仍テ以テ軍備制限ノ企圖ヲ助成センカ爲メニ外ナラス」

トシ次テ軍備問題先議說並ニ太平洋極東問題先議說ハ何レモ充分ノ理由ヲ發見スルヲ得ストシ且ツ

「余ハ直ニ軍備制限問題ノ討議ニ入ランコトヲ提議ス然レトモ之カ爲メ極東問題ノ研究ヲ遷延スヘシト云フニ非ス是等重大問題モ同シク解決ヲ迫リツツアリ」

トテ軍備問題及太平洋極東問題ノ併行討議ノ趣旨ヲ明カニシ且ツ兩問題ニツキ各別ノ委員會ヲ設クヘキコトヲ提議シテ可決セラレ茲ニ太平洋極東問題委員會ハ軍備制限問題委員會ト相併ヒテ開設セラレ支那ニ關スル各種ノ問題ハ同委員會ニ於テ討究セラルルコトナレリ

右「ヒューズ」氏ノ演說中太平洋及極東問題ニ關スル部分ノ原文次ノ如シ

It is recognized, however, that the interests of other Powers in the Far East made it appropriate that they should be invited to participate in the discussion of Pacific and Far Eastern Problems, and, with the approval of the five Powers, an invitation to take part in the discussion of those questions has been extended to